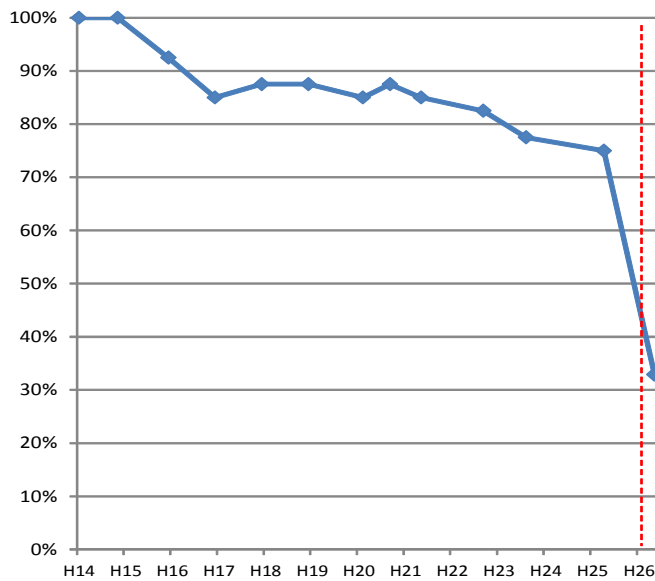


樹種名	シロダモ	
科 目	クスノキ科	
学 名	<i>Neolitsea sericea</i>	
分 布	本州の山形県と宮城県以西、四国、九州及び南西諸島に、国外では朝鮮半島、中国及び台湾に分布する。山地や低地の森林内に生育する。	
樹木特性	陰樹であり、低地や山地の照葉樹林に生育している。暗い環境でも成長し、比較的長寿な樹種であるため稚樹が暗い環境にある程度耐え閉ざされた林冠の下でも前生稚樹を形成できる。 生育環境が良好な場合では、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は無い。	
用 途	防風樹、器具材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	255 本／0.11ha (2300 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 シロダモは、クスノキ科シロダモ属の常緑高木。別名はシロタブ、タマガヤで、樹高は 10~15m に達する。幹は直立し、樹皮は紫褐色から暗褐色。若枝には黄褐色の絹毛がある。 葉は互生、葉柄があり、枝先に密にする。葉身は長楕円状披針形で、長さ 8~18cm、先端は尖り、3 行脈が目立つ。若葉には黄褐色の絹毛があるが、後に表面は無毛になり、裏面は粉白色を帯び、多少絹毛が残る。雌雄異株。花期は秋。花は散形花序で、葉腋に黄褐色の小花を多数つけ、翌年の秋果実が赤色に熟す。果実は楕円状球形で、長さ 12~15mm。	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生した。さらにウサギによる食害も発生した。また、平成 14 年に寒風害による被害を受け全個体が枯死したことにより、場所を移設し新たに植栽（改植）した。平成 14 年 3 月に改植した調査木は寒風害による被害は発生していない。 植栽（改植）から 12 年が経過した現在の平均樹高は 4m 程度まで成長している。現存率は 33 %となっている。	
被 害	ウサギによる被害が発生した。コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。(延べ駆除本数 カミキリムシ類：1 本)	

シロダモ 現存率



【現存率】

植栽後よりコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害や、ウサギによる食害による枯死が発生した。

平成 14 年に寒風害による被害を受け全個体が枯死した。このことにより、場所を移設し新たに植栽した。移設した場所では、雑木の進入が多く被圧されていたので平成 20 年度に除伐を実施した。

現存率のデータは平成 14 年 3 月以降に改植した調査木であり、被害は発生していない。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 32.9%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

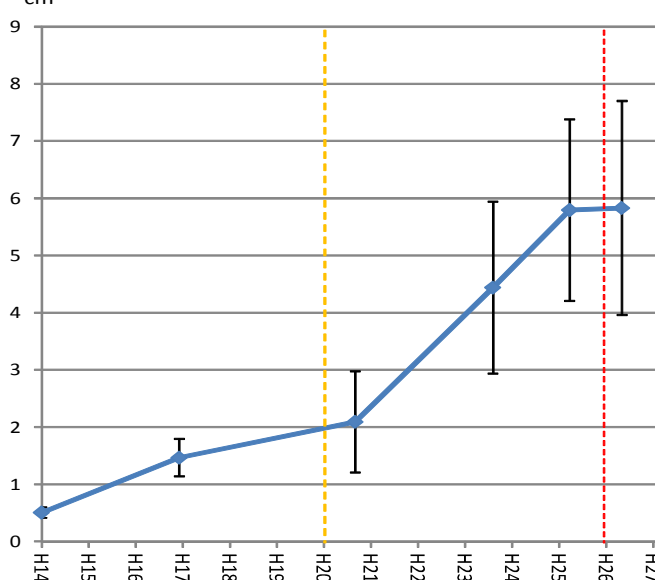
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 5.83 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

シロダモ 根元・胸高直径



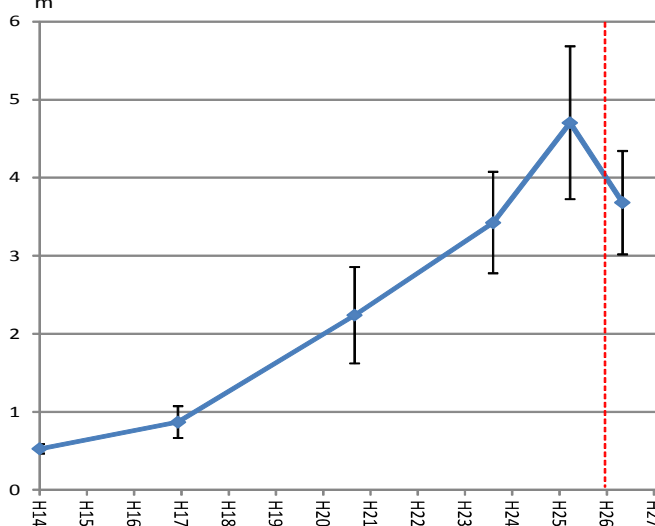
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 4.94m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

シロダモ 樹高



《プチ情報》

木全体に精油を含み芳香があり、種子から採油し、蠟燭の材料とする。